

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社大一商会北名古屋工場	階数	地上4階
建設地	愛知県北名古屋市神宮寺(東127-1,127-2,128,129,130,131,132,133,134番地)	構造	S造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,500時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年12月8日
敷地面積	5,117 m ²	作成者	杉浦 大輔
建築面積	2,977 m ²	確認日	2023年12月13日
延床面積	9,102 m ²	確認者	高橋 広直



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 89%
- ③上記+②以外の: 89%
- ④上記+: 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q3 室外環境(敷地内): 4
LR3 敷地外環境: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR1 エネルギー: 3
Q1 室内環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>1.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社大一商会北名古屋市工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	2.7
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.1	0.52	-	-	-	-	-	3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.5	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	4.0	0.08	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		②	階高4.3m以上を確保		-	5.0	0.60	-	3.0
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1以内		3.0	4.0	0.40	-	3.0
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上で、将来他用途への転用可能		3.0	5.0	0.31	-	3.0
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	4.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	4.0	0.22	-	-	-	
			室外機仮置きスペースを屋上に用意 室外機将来スペースを確保		3.0	4.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	3.3	0.63	-	-	-	3.3
4 効率的運用			0.2	2.5	0.25	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			1.0	2.5	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護			0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水			3.0	1.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	陶磁器質タイル—屋内外の床タイルに採用		-	3.0	0.21	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	3.0	0.21	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	3.0	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	5.0	0.25	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減		独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制		独自	-	5.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音		独自	-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動		独自	-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

株式会社大商會北名古屋市工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:1.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{(評価点} \times \text{全体に対する重み)の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社大一商会北名古屋市工場

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>階高さ、スパンに余裕の有る工程の一連の流れをスムーズに行える作業空間としている。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。</p> <p>工場用途の為対象外。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>階高さ、スパンに余裕があり、大空間を保管物に応じてフレキシブルに活用できる。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>車両の向きに規制を設け、作業車の流れをスムーズに行える。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>省エネを考慮し、照明はLED照明器具を採用した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>非構造材料にリサイクル材を使用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>作業車、管理用の待機、駐車スペースを確保。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>